

# 「人と自然との共生懇談会」における主な論点

## 資料1

主な論点の右側の数字は当該意見があった懇談会の回数 【例えば、②は第2回懇談会での論点であることを示す】

大テーマ	小テーマ	キーワード	主な論点	関連すると思われる愛知目標（例）
■生物多様性の重要性と認識の拡大	○普及とアプローチのあり方とわかりやすさの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然との親しみ</li> <li>・生物多様性の楽しさ</li> <li>・生物多様性の言い換え</li> <li>・日本人の心の変化</li> <li>・社会的影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と親しみながら生きること（生物多様性）の楽しさを伝える ③⑤</li> <li>・図鑑的な知識から抜け出し、個体として生きる生物からストーリーを読み解くことで生物多様性を楽しむ ③</li> <li>・生物多様性をいかに分かりやすく伝えていくか（教育、用語の言い換え） ①</li> <li>・評価の限界を認識した上での生態系サービスの価値評価 ⑤</li> <li>・自然に対する日本人の心の変化 ④</li> <li>・「種の絶滅」に代わる、社会的影響力を持つ新たな概念の必要性 ③</li> </ul>	A- 1. 生物多様性の価値と行動の認識 A- 4. 持続可能な生産・消費のための計画を実施
	○教育・学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・癒しの場</li> <li>・自然の恵みの認識</li> <li>・生物多様性を実感する機会</li> <li>・地域間の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自然を感じられる機会づくり ①</li> <li>・教育や癒しの場づくり ②</li> <li>・地域レベルでの自然の恵みに対する認識の向上 ②</li> <li>・日本の国土の多様性を認識できる機会づくり ⑤</li> <li>・地域間で連携した自然環境モニタリングの実施 ⑤</li> </ul>	
	○様々な主体の参加促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の活動促進</li> <li>・意見の汲み上げ</li> <li>・社会的合意形成</li> <li>・若者へのインセンティブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性に関する様々な意見の汲み上げ ①</li> <li>・地域住民の主体的な活動の促進 ②</li> <li>・社会的合意形成を図るための各主体の広がり、関心、対立構造の把握 ③</li> <li>・COP10で生物多様性に関心を持ちつつある層の慫慂 ③</li> <li>・若者に対するインセンティブの提示 ④</li> </ul>	
	○科学技術の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と共生した技術</li> <li>・IPBESのあり方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を保護するためには、社会システムの課題に加えて、自然と共生した土木技術が必要 ③</li> <li>・IPBES（生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム）については、価値観や文化を含む生物多様性の価値を内在し、人間の豊かさや幸せを導くものとして提案する必要性 ③</li> </ul>	
■生物多様性と経済発展の調和		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済発展との調和・相乗効果</li> <li>・グリーン経済の概念</li> <li>・国家維持原理としての生物多様性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性と経済発展の調和による相乗効果 ③</li> <li>・これまでの経済発展の概念とは異なるグリーン経済の概念の提示 ③</li> <li>・生物多様性の保全は国家を維持する上での原理 ①</li> <li>・経済をより大きなスケールで考えることの必要性 ⑤</li> </ul>	A- 2. 生物多様性の価値の国家勘定、報告制度への組み込み
■地域に根ざした個性的で魅力的な地域づくり	○地域コミュニティの維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有資源の管理</li> <li>・地域の生物多様性の活用</li> <li>・地域コミュニティの維持</li> <li>・新たなプランニング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のつながり ①</li> <li>・地域の生物多様性を活かしていく考え方 ①</li> <li>・地域の共有資源の管理とリスク負担 ①</li> <li>・地域コミュニティの維持 ②</li> <li>・地域外の人（若者、棚田オーナー）を組み込む視点 ④⑤</li> <li>・地域住民が関与するための新しいプランニング ④</li> </ul>	B- 6. 水産資源の持続的な漁獲 B- 7. 農業等の持続可能な管理 C-13. 作物・家畜の遺伝子の多様性の維持 D-14. 自然の恵みの提供
	○都市と地方の関係性の再構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の再生</li> <li>・美しい国土</li> <li>・キーステーションとしての国立公園</li> <li>・土地利用の空白を自然で充填</li> <li>・都市と地方の関係</li> <li>・環境文化の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続的な利用を通じた地域再生につながる自然公園づくり ④</li> <li>・美しい国土を取り戻すための自然公園 ④</li> <li>・都市と地方を結び付けるキーステーションとしての自然公園 ④</li> <li>・土地利用の空白を自然で埋める郊外型住宅地の形成 ②</li> <li>・従来型の「市街地＝都市、それ以外＝農村」という考えではなく、市街地と周辺の自然環境を含めたCity regionという考え方 ②</li> <li>・昭和25～45年の急速かつ決定的に大きな国土の改変を認識する必要性 ②</li> <li>・今後の人口動態を踏まえた都市と地方のそれぞれにおける計画立案の必要性④</li> <li>・地域の生活に密着した人と自然との関係性（環境文化）の構築 ④</li> </ul>	

大テーマ	小テーマ	キーワード	主な論点	関連すると思われる愛知目標（例）
■人口減少、少子高齢化へ対応した国土利用の考え方	○経済優先の価値観から幸せを重視した価値観への転換	・縮小・成熟型社会 ・不自然との共生 ・煮詰まった状態からの脱却 ・幸せのあり方・価値観の転換	・経済優先ではない社会システムの構築と生物多様性の意義 ① ・現代日本人は自然ではなく不自然と共生 ① ・生物多様性の議論は煮詰まっている ③ ・縮小・成熟型の社会モデルの提示 ② ・縮小社会への変化をポジティブに捉える ④ ・価値観の転換、幸せのあり方についての議論 ② ・国民の夢の多様化への対応 ③ ・生物多様性、自然環境分野での楽しく豊かな生活を実現するための社会モデルの構築 ③	A- 1. 生物多様性の価値と行動の認識 A- 2. 生物多様性の価値の計画への統合
	○国土管理に必要な投資の効率化・重点化	・新たな減災システム ・撤退戦略 ・海岸線の資源の活用	・人工物だけではない社会的な減災システムの構築 ① ・人口減少時代の撤退戦略 ② ・不均衡な発展への投資 ④ ・被災地の復興における海岸線の資源の活用 ②	C-11. 陸域・海域の保護地域による保全
	○自然の歴史やメカニズム等の考慮	・自然のメカニズム ・自然の歴史 ・再自然化	・自然のメカニズムに着目した土地利用 ② ・自然そのものの歴史を考慮した視点 ③ ・自然と共生した技術を発達させていく責任 ③ ・林業等産業が成り立たない地域における積極的な再自然化 ④ ・災害を避ける国土利用 ④ ・沿岸域や海洋を含めた土地利用の考え方 ②	E-19. 生物多様性に関連する知識・科学技術の改善
	○国土利用の再編における国土の生態系の回復	・脆弱な自然環境の保全 ・無居住地の管理再生 ・荒廃した里山の再生 ・美しく安全な国土	・優れた自然だけではない、脆弱な自然環境の保全 ② ・美しさが失われた国土を取り戻すための場としての国立公園 ② ・無居住地化する地域の効率的な管理とその再生 ②⑤ ・人口減少を踏まえた安全で美しい国土（と生物多様性との融合） ③ ・中山間地における荒廃した里山の再生 ④ ・縮小社会への変化をポジティブに捉えた国土全体の自然環境の見直し ④ ・美しい国土、安全な国土づくり ④	B- 5. 自然生息地の維持 C-11. 陸域・海域の保護地域による保全 D-15. 劣化した生態系の回復を通じた気候変動の緩和と適応への貢献
■自然資源の活用	・資源としての国土 ・超長期的な再生 ・バイオマスエネルギー	・国土を資源として捉えて活用（特に沿岸域、海洋）② ・経済学的な視点、将来シナリオ、国立公園の新たな役割を含む超長期的な里山里海再生計画の策定 ④ ・（里山林の）需要を喚起するためのバイオマスエネルギーへの取組強化 ⑤	A- 3. 生物多様性にとっての正の奨励措置の策定、提供 D-14. 自然の恵みの提供	
■野生生物との共存	・野生生物に対する多様な見方 ・野生生物の持続的利用の経済的インセンティブ ・普通種からみた生物多様性	・野生生物に対する考え方や見方が多様であることを踏まえた議論 ⑤ ・野生生物の持続的利用による経済的インセンティブの付与 ⑤ ・湿地は野生生物の生息地や二酸化炭素のシンクとして重要 ⑤ ・絶滅危惧種だけではなく、普通種の動態による生物多様性の状態の把握 ⑤	D-14. 自然の恵みの提供	
■遺伝資源の利用	・伝統的知識	・伝統的な知識（遺伝資源、生物資源に対する理解の仕方）の再評価 ⑤	E-18. 伝統的知識の尊重	
■国際的な取組	・世界共通の価値観 ・豊かな生活を実現する社会モデル ・多様な価値、多様な考え方	・アジア的な自然観だけではない世界共通の価値観 ③ ・楽しく豊かな生活を実現する社会モデルを生物多様性分野で作り出し、国際協力につなげることが重要 ③ ・多様な自然の価値、多様な考え方を踏まえた発信 ⑤ ・地球温暖化、生物多様性、砂漠化に関する取組の連携の重要性 ③	E-19. 生物多様性に関連する知識・科学技術の改善	
■SATOYAMAの概念と課題の共有	・新たなビジネスモデル ・日本モデルの提示	・生物多様性を活かした新しいビジネスモデル（SATOYAMAイニシアティブ）① ・人間の生業が一体となった里山のような地域（日本モデル）の途上国への提示 ③ ・SATOYAMA概念の展開 ④	B- 7. 農林水産業の持続可能な管理 E-18. 伝統的知識の尊重	
■今後の生物多様性国家戦略のあり方	・方向性の明示 ・我々の世代の責任	・方向性やアクションの提示 ① ・実施者の明確化 ③ ・COP10を受けた今後の対応や愛知目標の達成に向けた具体的な行動の提示 ①③ ・生物多様性に対する我々の世代の責任の強調 ⑤	E-17. 効果的で参加型の国家戦略の策定実施	